

# 乳がんの専門医に聞く

富山労災病院第 外科医師

むねもと 宗本  
まさよし 将義



## － 乳がんについて（第2弾）－



### ◆ 治療の決定

先回は検診を行って早期発見が一番重要で、『治る』確率が高くなるというお話をしました。そこで今回は、乳がんと診断されたあとの『治療』についてのお話をすすめます。まず、乳がんは「サブタイプ分類」というものがあります。簡単に説明すると、ホルモンの感受性、「HER2」という受容体が発現しているかどうか、また腫瘍の成長率がどうかで分かります。その分類により、何が必要か判断し、下記のように治療の順番を決めていきます。

- ☆ 先に手術をする方法を選ぶ。
- ☆ 手術の前に、術前補助化学療法を行う。
- ☆ 手術を行った後に、術後化学療法を行う。

手術の仕方は大きく分けると、乳房の悪性腫瘍を切除する方法（乳房切除）と、腋窩のリンパ節を含めて切除する方法があります。・乳房切除は、腫瘍の大きさ、部位により部分切除ができない場合もありますが、たいていの場合は部分切除（腫瘍と周りの一部を切除する）が可能です。そして部分切除を行った場合、術後に更に 1 ヶ月半程度の放射線治療を行うと全摘出術（腫瘍とともに乳房全体を取る手術）と同様な術後成績となっています。

・腋窩のリンパ節を含めて切除する方法は、MRI、PET 等の検査でがん転移の可能性を認めた場合にできるだけ広範囲に、乳房と腋のリンパ節を切除していきます。ただし手術中に、見張りのリンパ節（センチネルリンパ節）を色素で同定し、顕微鏡検査で転移の有無を確認します。転移がなければリンパ節は切除しません。広範囲に切除した場合は、術後に手のむくみや皮膚の感覚が鈍くなる等の合併症が起こる可能性が高くなります。手術は全身麻酔で行いますが、時間は2～3時間であり、術後の食事摂取は可能です。

### ◆ 術後の治療について

切除した標本は、顕微鏡の検査に提出し、更に転移の有無、癌の進展度を調べます。それにより、術後に抗がん剤による治療が必要か判断します。たとえ転移がなくても前述のサブタイプによっては再発予防のため抗がん剤が必要になることもあります。またホルモン剤の内服が5年～10年必要とする場合があります。いずれにせよ、癌の発見が遅くなってしまうと転移の可能性は高くなり、治療も体に負担のかかるものになります。

早期発見のためにも乳がん検診を受けましょう。



発行： 独立行政法人労働者健康福祉機構富山労災病院 地域医療連携室

Tel : 0765-22-1354 Fax : 0120-935-631 (フリーダイヤル)

ご質問やご相談は地域医療連携室まで、また富山労災病院ホームページもご覧ください。